

サポートセンター通信

第52号

発行元：松本市民活動サポートセンター
〒390-0874 松本市大手 3-8-13
松本市役所大手事務所 2階
TEL/FAX：0263-88-2988
E-mail：support-center@support-center.jp
URL：http://www.support-center.jp

ぼくらの学校 2014 年度実行委員会がスタート！参加団体最終募集！

ぼくらの学校 2014 実行委員会がいよいよスタートしました。5月30日の説明会及び第1回実行委員会には、16団体の参加があり、昨年度の内容をブラッシュアップする形で実施することを決定。実行委員長には、平島安人氏(自然エネルギーネットまつもと代表)を再選しました。

実行委員会有志からなる企画会議も6月25日、7月14日の2回開催され、広い層への参加の呼びかけや、屋外イベントの充実、賑わいの創出などについて検討されました。サポートセンターで活動を始めたヤングサロンの参加により、企画会議の空気が一転。サブテーマの提案では、柔軟な発想と奇想天外？なアイデアにあふれていました。右の二案から次回実行委員会で決定する予定です。

若者が企画する団体交流のワールドカフェは、世代を超えた意見交換が楽しみです。さらに、ステージ企画でもヤングサロンの企画で若者の出演者を募集していくことになり、若者の企画への参加で、今まで参加の少なかった若者層に関心を持ってもらえることを期待しています。

「ぼくらの学校」

開催日：9月27日(土)・28日(日)

会場：あがたの森文化会館、あがたの森公園

内容：参加団体のパネル展示とワークショップ他
ウォークラリー、フラッシュモブなども企画中

<サブテーマ案>

- ① きっと見つかる！学びのアドベンチャー
- ② からだで体験。頭で発見。その名は…

参加申込み締切 7月23日(水)

別紙「参加申込票」にてお申込みください。

<今後のスケジュール>

第2回実行委員会7月23日(水)

第3回実行委員会8月20日(水)

第4回実行委員会9月17日(水)



松本市東日本大震災避難者支援連絡会 発足

市民活動サポートセンターは、東日本大震災による被災で、松本市へ移住や避難をする避難者の皆さんとの交流を継続している支援団体と協働で、2012年度より県の地域コミュニティ復興支援事業補助金を活用し、避難者交流事業を実施してきました。三年目の取り組みとなる今年は、関係団体の情報交換や連携を密にするためのネットワーク組織「松本市東日本大震災避難者支援連絡会」を発足させました。連絡会には、疎開や保養で福島支援をする団体、避難者同士の親睦会や子育て支援団体など、9団体が参加して、今後の活動について話し合いを行っています。



移住者や避難者が地域でのつながりを深めていただく交流会を開催していきます。また、それぞれの力を合わせて、3.11を教訓に緊急時の行動を考えるシンポジウムを実施しようと計画しています。

助成金カレンダーの窓口閲覧

助成金の申請をしようと思っていたら「あもう締切！」なんて経験はありませんか？

申請団体の募集は、ほぼ定期的に行われているものです。サポートセンターでは、助成元から出される年間の助成金情報を「助成金カレンダー」にまとめ、さらに、サポセン通信で紹介しきれない助成金情報も掲載し、分野ごとに検索できるものにしました。サポートセンター窓口で閲覧ができますので、計画的な資金調達を進めていただくため是非ご活用ください。

また、それぞれの組織形態や活動にあった助成金、申請書の書き方など、お気軽にご相談ください。



サポセン日記

📅 5/27~7/15 託児ボランティアの養成講座

子育て支援団体のイベントをサポートする託児ボランティアの養成講座が連続7回開催され、19名が受講しました。ボランティアの心構えから、事故や病気の応急処置、コミュニケーションや遊びなど子どもとの関わりについて学びました。心理アドバイザーによる「子どもの気持ちの受け止め方」では

「受容」の難しさをあらためて感じました。一日保育実習では市内の保育園に受け入れをお願いし、園での日常生活やお誕生日会などの行事にも参加。参加者は「童心に帰りととても楽しい時間を持つことができました」と笑顔で語ってくれました。



最終回には、すでに託児ボランティアとして活動している方々との交流会で、先輩たちの助言に励まされました。受講者の多くがプラチナ世代で、男性も3人といううれしい傾向にあり、「妻任せの子育てでしたが、この講座で子どもとの関わりが楽しくなってきました。地域で活かします。」とたのしい感想もいただきました。自分の子育てをふり振り返り見つめなおす機会にもなりました。

📅 7/10 プラチナサロン「出前講座受付中！」



毎月定例（第2木曜日）で開催され、回を重ねるごとに常連参加者も増え、ゲストから講師に転身する方も出てきました。自分の特技を活かしたもので講師を務める「タレント登録」も順調に登録者が増え、講座内容も充実してきました。7月は新人プラチナ講師堤守さんの「家族信託」の講座でした。

📅 7/10 ふれあいサロン・夏

今回19回目となった障害者就労施設の販売会にあわせて開催される交流会は、施設間の交流として利用者さんと職員さんと参加者みんなで歌を歌って交流しました。昨年よりプラチナサロンと合同開催でさらに賑やかになりました。三木明子さんのリードでアンパンマンでお馴染みのやなせたかし作詞『手のひらを太陽に』を世代を超えて大合唱しました。



支える人たち

～交流イベント「ひとつ」実行委員会 今井 康裕さん～

「ひとつ」実行委員会
Mail: imai@7colors.org
Tel: 080-2346-7601

サポートセンターの閲覧コーナーに設置された書籍『女性たちの被災体験談』。ページを開くと、東日本大震災を体験された方々の悲痛な思いや葛藤が綴られていました。ぜひお話を伺いたいと思い、発行者の今井さんにインタビューしました。



—『女性たちの被災体験談』出版のきっかけは何ですか。

2012年2月に、実際に自分の目で震災の現状を確認したいという思いから被災地に赴きました。帰ってからは、何かできることはないかと悶々と悩む日々を過ごしていました。そこで、石巻市で知り合った女性にその気持ちを打ち明けたところ、「自分たちの体験談を集めて伝えたい」というお話があり、「それなら本を出しませんか」と私から出版の提案をしました。

—『女性たちの～』で伝えたかったことは何ですか。

あまりにも悲痛な体験談に触れ、自然をもっと怖がらなきゃいけない、二度と誰かが同じような気持ちを味わってはならない、という思いを多くの人々が共有すべきだと感じました。この体験が、未来に活かせる教訓として、多くの方に伝わってほしいと思っています。

—おひとりで活動しているのですか？

ひとりでやっているというわけではないですが、特定のメンバーでグループをつくって活動するよりも、インターネットを通して全国各地にいる仲間得意分野で協力してもらおうという方法でつながるほうが活動

しやすいんです。プロジェクト単位で協力者を集めて活動することの方が、自分には合っていると思いますし、色々な意味で身軽ですね。

—交流イベント「ひとつ」（本紙4面参照）についてお聞かせください。

今回のイベントは、震災体験者のメッセージを受け取り、それを自分のこととして未来に活かそうとする考え方を共有しましょう、というのが趣旨です。メディアが騒がなくなると、震災に対する世間の関心も薄れているように感じます。そんな中で、少しでもみんなの気持ちがひとつになれるイベントを、と願って企画しました。当イベントが震災の「記憶の風化」防止の一助になればいいですし、さまざまな方々との交流のきっかけにして頂けたらと思います。皆さまの参加をお待ちしています。

お仕事が忙しい中でも、出版やイベント企画など自分にあつた方法で「続けられる」被災地支援をされている方という印象でした。（インタビュー：なかがわ）



一般社団法人 松本映画祭プロジェクト

Tel : 0263-35-2810 (代表 河西 徳浩)
E-mail : matsumotofilmfes@gmail.com
URL : <http://smf-matsumoto.com/>

団体設立のきっかけとなったのは2008年3月に開催された「第一回 商店街映画祭」。松本に住み続け松本をより熱くしたい。そして旅人が憧れる街にしたい、次の世代に今より少しでもいい松本を残したいという思いから活動が始められた。松本映画祭プロジェクトのマーチンデザイナーの河西佳代さんにお話を伺った。

松本映画祭プロジェクトは、毎年柱となる映画祭を3つ開催している。1月の「商店街映画祭」3月の「まつもと子どもたちの映画祭」そして、夏開催の平和について考える「地球のステージ」である。

商店街映画祭は、今年で7回目を迎える。全国から、アマチュア映画監督による、様々な商店街を舞台とした短編映画作品が多く寄せられており、映画や映像を通じて松本の街に魅力を感じた人々に松本に来てもらうことによって、地域活性化を目的としている。

「まつもと子どもたちの映画祭」はテレビ信州と共催で開催される。子どもたちがはじめてスクリーンで見る映画が感動する作品であってほしいという思いから企画された。

「映画が子どもたちの印象に残って、子どもたちによって街が優しい気持ちや思いやりにあふれて欲しい。子どもだけでなく、大人にも見てもらいたい」と河西さんは話す。



子どもたちの映画祭のようす(↑)

「地球のステージ」は紛争地域や災害地域で生活する子どもたちの姿を映像と音楽で贈る。過去3回開催されており、今年は11月に松本で開かれる平和首長会議にあわせて企画している。「紛争地域や難民キャンプに暮らす人々はかわいそうな人だと思いますか?」「子どもがすごく笑っているのはなぜだと思いますか?」テレビで報道されるものではなく、そこに暮らす1人の人間にフォーカスした映像や写真によって、紛争を身近に感じることで平和について考えるイベントとなっている。

これらのメインイベントの他に「プレイベント」や「シネマパブ」といった映画祭で上映しきれない作品の上映も行っている。「映像や映画を通じて、“街”や人々を元気づけられれば」と河西さんは語った。(たかしま)

NPO法人 まつもと子ども留学基金

Tel / Fax : 0263-55-7946 (事務局長 橋本 雅子)
E-mail : matsumoto.relief@gmail.com
URL : <http://www.kodomoryugaku-matsumoto.net/>

東日本大震災後の原発事故の影響で不安定な生活を余儀なくされている福島の子供たちに、安心して暮らし、勉強できる住環境を与えてあげたい。そんな思いが行き着いたのが「子どもたちを放射能の心配のない松本へ留学させる」こと。2013年秋にNPO法人「まつもと子ども留学基金」が立ちあがった。運営から3ヶ月が経った現在の様子を、副理事長の橋本俊彦さんに伺った。

松本市四賀地区に借り受けた畑付きの民家を寮とし、子どもたちは常駐スタッフと共同生活を送る。今年3月、

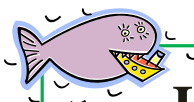


8人の小中学生が入寮した。初めは緊張気味であった子どもたちも、スタッフのたゆまぬ

(←)農作業中の子どもたちのようす

努力と地域の方の支え、ボランティアの方の協力を得て徐々に生活のペースをつかみ始め、その子なりの歩みで前向きに進みはじめています。「四賀地区は里山の雰囲気がある福島の飯舘村に似ていて、地域の方々がお互いに助け合う雰囲気があります。」と橋本さん。子どもたちと地域との交流も進んでいる。子どもたちは先日、支援者の方と野草採りや味噌作りに挑戦し、また地域のスポーツ大会にも参加。福島では様々な生活の制約を受け、知らず知らずのうちに我慢を強いられてきた子どもたちも、松本への留学で普通の生活環境に身を置けるようになり、勉強はもちろん部活動に励む姿も見られるようになった。

家族と離れての生活の中では大変なことも多い。自ら後片付けや洗濯をし、共同生活のルールも守らなくてはならない。そんなときスタッフは、常に子どもたちに「なぜ、ここに来たのかの意味について考えてほしい。」と投げかけ、話し合っている。橋本さんが「苦労も多いが、子どもたちの成長を感じられるのが何よりも嬉しいし、楽しい。いつか子どもたちが大人になった時、ここに帰ってきたいと思えるような場所を作れたらと考えています。」と真摯な口調で語ったのが印象的だった。(さとう)



INFORMATION : お申込・お問合せは各団体に直接お願い致します。



イベント・募集情報をお寄せください。

サポートセンター通信やホームページで、市民活動のイベント情報や募集情報などをご紹介します。



松本市社会福祉大会

社会福祉向上に尽力された方々の功績をたたえるとともに、住民が相互に助け合い支え合う福祉のまちづくりを市民総参加で考えましょう。

- ◆日 時: 7月23日(水) 13:30~15:40(受付 12:40)
- ◆会 場: 松本市音楽文化ホール
- ◆内 容: アルペンスキーヤー三澤拓氏による記念講演、松本養護学校太鼓連まつよう太鼓JOYによる太鼓演奏 ほか
- ◆参加費: 無料
- ◆問合せ: 松本市社会福祉協議会 地域福祉課
TEL:0263-27-3381 FAX:0263-27-2239
E-mail:chiiki@syakyo-matsumoto.or.jp



シニアバスハイク 参加者募集

8月は戸隠パワースポットとそば満喫、10月はロープウェイで千畳敷の紅葉満喫。自然を満喫して仲間をつくりましょう!

- ◆日 時: 【戸隠パワースポットとそば】8月23日(土)
【千畳敷の紅葉】10月4日(土)
※両日とも 7:30~17:30
- ◆参加条件: おおむね 55歳以上の独身または独居の男性で健康、脚力に自信のある方
- ◆申込み問合せ: 社会福祉協議会 地域福祉課
(担当: ボランティアセンター)
TEL:0263-25-7311



米子さんのいのち育む食べ物の話

福島市在住の生活評論家、薬剤師、料理研究家の境野米子さんを講師にお迎えします。避難してきたお母さんとの懇談会も予定しています。

- ◆日 時: 7月26日(土) 13:30~
- ◆会 場: キッセイ文化ホール 第2会議室
- ◆入場料: 500円
- ◆主 催: 認定NPO 法人日本チェルノブイリ連帯基金
- ◆問合せ: JCF 事務局 TEL:0263-46-4218
E-mail:asama@jcf.ne.jp

※託児あり。事前申し込みはJCF事務局まで。

交流イベント ひとつ ~震災体験者からのメッセージ~

共に手を携えて災害に立ち向かってゆくため、子孫に残せる未来を切り拓くため、今こそみんなの心を「ひとつ」にしよう。

- ◆日 時: 9月13日(土)
- ◆会 場: まつもと市民芸術館 主ホール
- ◆内 容: 朗読、講演、映画「ひとつ」の上映ほか
- ◆入場料: 1000円(前売800円) / 学生・障害者無料
- ◆主 催: 交流イベント「ひとつ」実行委員会
- ◆問合せ: 080-2346-7601 (今井)



第8回 ハートラインまつり

盆踊り、銭太鼓などのステージ発表のほか、喫茶店・ぬくもり喫茶むくの木の特別メニュー、アイスキャンディ、工芸品、紙すき製品など販売します。

- ◆日 時: 7月26日(土) 15:30~18:30
- ◆会 場: ハートラインまつもと 支援センター
(松本市寿北7-23-17) 横の駐車場
- ◆参加費: 無料
- ◆問合せ: NPO 法人ハートラインまつもと
TEL:0263-86-8010



第5回 長野県不登校を考える県民のつどい 実行委員募集

不登校への理解を深め合い、実践から学び合います。一人ひとりの思いと力を寄せ合って、つどいを創っていきましょう。

- ◆日 時: 第5回つどい開催予定 11月24日(月)
- ◆会 場: 伊那市生涯学習センター (いなっせ)
- ◆主 催: ながの不登校を考える県民の会
- ◆問合せ: 上伊那子どもサポートセンター
E-mail:kodomosupportkamiina@sunny.ocn.ne.jp FAX:0265-94-2064
TEL:0265-76-7627 (担当 トエダ)



新スタッフ紹介

避難者交流事業を担当します。避難者支援事業がより発展するためのサポートができるようがんばります。よろしくお願ひします。(こばやし)

編集後記

2014年も後半に入りました。暑い日が続きますが、サポートセンターでは実りの秋に向け、今年も市民活動フェスタの準備が進んでいます。(なかがわ)